

第1講：聖書 - キリスト教思想の源流 -

1. 正典、2. 啓示、3. 創造

4. 知恵

(1) 成立の歴史的背景

旧約聖書の「知恵文学」：ヨブ記、詩篇の一部、箴言、コヘレトの言葉、
そして外典の知恵の書、シラ書(集会の書)

王国形成と捕囚

地中海・オリエント世界の国際関係

ヘレニズム世界におけるユダヤ人

知恵文学の成立の場

共同体の知恵(伝承) / イスラエルにおける知識人 / 宮廷
cf. エジプトの書記学校

オリエントの知恵文学の伝統

「ヤハウエ信仰」の国際性

ヘブライ思想の普遍化

(2) ヘブライ的知恵文学の特徴

創造の知恵、あるいは知恵による創造

世界に内在する法則性への信頼 神への信頼

「神への畏れ」

「知恵のある生活」

箴言14章：「神を畏れる - 神に逆らう 知恵 - 無知、正しい - 悪しき、謙虚 - 高慢」

因果応報とその限界：コヘレトの書1～2、ヨブ記

信仰者の不信仰(罪を一般的論理へと解消する。一般論としての罪)

5. 終末

1. 終末論とは：預言書、黙示文学(ダニエル書、ヨハネ黙示論)

2. バビロン捕囚以後の民族のアイデンティティーの危機

歴史の危機に直面したイスラエルの宗教的伝統の新しい展開

民族の自己同一性の再建、抵抗文学

3. イエス研究の転換

19世紀：市民社会の倫理から見たイエス

20世紀：黙示文学的終末論の再発見(ヴァイス、シュヴァイツァー)

20世紀末(80年代以降)：イエス理解における終末論の相対化

4. 「神の国」、「人の子」の解釈

5. 知恵の教師イエス：慣習的知恵と転換的知恵

6. 知恵と終末論：

<文献>

1. クロッサン 『イエス あるユダヤ人貧農の革命的生涯』(新教出版社)
2. ボーグ 『イエス・ルネサンス 現代アメリカのイエス研究』(教文館)
3. フォン・ラート『イスラエルの知恵』(日本基督教教団出版局)
4. 並木浩一『旧約聖書における文化と人間』(教文館)

<イザヤ>

49:6 こう言われる。わたしはあなたを僕として / ヤコブの諸部族を立ち上がらせ / イスラエルの残りの者を連れ帰らせる。だがそれにもまして / わたしはあなたを国々の光とし / わたしの救いを地の果てまで、もたらず者とする。

<箴言>

- 1:7 主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも諭しをも侮る。
1:8 わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。
8:22 主は、その道の初めにわたしを造られた。いにしへの御業になお、先立って。
8:23 永遠の昔、わたしは祝別されていた。太初、大地に先立って。
11:1 偽りの天秤を主はいとい / 十全なおもり石を喜ばれる。
11:2 高慢には軽蔑が伴い / 謙遜には知恵が伴う。
11:3 正しい人は自分の無垢に導かれ / 裏切り者は自分の暴力に滅ぼされる。
11:4 怒りの日には、富は頼りにならない。慈善は死から救う。
11:5 無垢な人の慈善は、彼の道をまっすぐにする。神に逆らう者は、逆らいの罪によって倒される。
11:6 正しい人は慈善によって自分を救い / 裏切り者は自分の欲望の畏にかかると。
11:7 神に逆らう者は力に望みをかけ、期待しても / 死ねばそれも失われる。
11:8 神に従う人は苦難に陥っても助け出され / 神に逆らう者が代わってそこに落とされる。
11:9 神を無視する者は口先で友人を破滅に落とす。神に従う人は知識によって助け出される。

<マタイ>

12:28 しかし、わたしが神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。

<マルコ>

- 1:14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、
1:15 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。
13:24 「それらの日には、このような苦難の後、 / 太陽は暗くなり、 / 月は光を放たず、
13:25 星は空から落ち、 / 天体は揺り動かされる。
13:26 そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々を見る。 <ヨハネ>
3:2「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」